



お経には 庄松を たすくるぞと と書いてある

おらあ 石の下には おらぬぞ (お淨土にまいるので墓にはいない)

アニキ、覚悟はよいか (ご門主の衣の袖を握り、信心を問う)



讃岐の庄松さん



4月1日(日)常信寺様で第12回鈴鹿組はなまつりが開催され、多くの方が参加されました。「らいはいのうた」おつとめ、子どもたちが灌仏しました。



今日は、フルート演奏です。本堂いっぱいに爽やかな春風の音色がひろがり、みなさん心音によいました。

おしゃかさまも微笑んでおられました。

にちようがっこう終了式 3月に小学校を卒業した太田怜那さんに本願寺より連盟賞が贈られました。低学年の頃からにちようがっこうに参加、本山参拝、名古屋別院、サマーキャンプの想い出も沢山です。また、遊びにおいて



無量寿会はなまつり 4月5日無量寿会はなまつり、総会が執り行われました。岡田さん声調で「正信偈」後、会員さん全員灌仏をいたしました。総会では皆勤賞準皆勤賞、参加賞の花がそれぞれ贈られました。花見団子でのティータイム、住職法話と唱歌、井関会長の手遊びのひととき。



春季永代経法要 4月28、29日と永代経法要をおつとめさせていただきました。両日とも多くのご参拝をいただき、読経の中、先往された方々を偲び順次ご焼香です。両日白山町から御出講の楠原純悠さんより「仏さまの願い」と題してご法話をいただきました。母方のおばあさんが残された「いつはする こともわから



でわがいのち いきつくさきは 蓮のうてなぞ」との尊い味わいなど優しく、細かく和らかくお話くださいました。法要後にお同行さんからのお手紙をご紹介いたします。「春季永代経法要を厳修され、今年も尊く有難いご縁を二日ともお参りさせていただくことができてありがとうございましたがたく本当に偉せでした御礼申し上げます。今回のご講師楠原純悠師は一志町川口西向寺様で、私は遠い昔の事ですが、父が国鉄時代名松線の伊勢川口の駅長で五年程勤務させて頂いた頃、私は小学校五年、六年と川口の小学校に通学し、川口小学校の卒業生で、その後松阪の飯南高女に名松線で通学致しましたので、想いで多き土地ですので、何となく懐かしく、親近感で楠原先生ともお話を交し、とても嬉しく感じました。ご法話もとても丁寧に、優しく解りやすく御法話頂き楽しく聴聞させて頂きました。本当に尊いご縁有り難く厚く御礼申し上げます。「法僧の明るき笑顔に若葉光」合掌 落合登代子



北海道札幌もこ数日の気温上昇にて雪解けが進み、水仙、クロッカス、チューリップの沢山の芽が冷たい土中から顔を出して居ます。

さて、昭和30年代に、私達若者に爆発的な人気を得たのは石原裕次郎でした。彼の映画の中での言葉に鋭く反応して、直ぐにその言葉と態度を真似ました。その事が恰好が良いことだと思いついたが、その時代の大半は、どの様に見ていたのだろうと、今になつてふと振り返り思う時があります。ところで、会社勤めの或る日に、会社前(札幌大通り4丁目公園)にて、偶然にも、石原裕次郎の口ヶ現場(西部警察)に出遭いました。彼の目の前1~2mの処でした。この出遭いが忘れられなく、一層ファンになりました。それから数年後(昭和62年)に彼、石原裕次郎は体調を崩し往かれました。その記念館が、彼の出生地小樽に、平成3年に建てられました。当然の如く見学訪問致しました。彼が養生された熱海にも夫婦で行きました。小樽方面へドライブする時には、必ず記念館を訪れ記念写真に收まりました。平成29年に突然に記念館を取り壊すことが決まり、ああ一時代が終わるのだと感慨深く心が湿りました。閉館前にも数回訪れました。平成30年3月18日(日)今年初めてのドライブで小樽港を訪れました。何時ものドライブ道を通る時に、石原裕次郎記念館に重機が見えました。ビックリしました。既に記念館の姿形は消えていました。えええ・・・大きな声で、「無い」と隣に座る妻に叫びました。妻もビックリ・・・声が出来ません。何故か、私の心に淋しさで涙が流れました。昭和時代の想い出がまた一つ消えました。さみしいですね、懐かしい思い出話になりました。

4月5日 北海道大島義勝さん

石原裕次郎記念館の閉館 何故か寂しい・・・

一学校祭、クラス仲間達から押されて

高校の学校祭で、のど自慢大会に出た

曲名は忘れたが石原裕次郎の唄を歌う
残念だが鐘は二つで賞は貰えなかつた

一昭和三十七年当時の石原裕次郎は

ナンバワンスター、芸能界一位スター

イカス姿(恰好が良い)に心奪われて

何時しか彼の唄を選曲し、歌う若氣

アンに成りました。それから数年後(昭和62

年)に彼、石原裕次郎は体調を崩し往かれました。その記念館が、彼の出生地小樽に、平成3年に建てられました。当然の如く見学訪問致しました。彼が養生された熱海にも夫婦で行きました。小樽方面へドライブする時には、必ず記念館を訪れ記念写真に收まりました。平成29年に突然に記念館を取り壊すことが決まり、ああ一時代が終わるのだと感慨深く心が湿りました。閉館前にも数回訪れました。平成30年3月18日(日)今年初めてのドライブで小樽港を訪れました。何時ものドライブ道を通る時に、石原裕次郎記念館に重機が見えました。ビックリしました。既に記念館の姿形は消えていました。えええ・・・大きな声で、「無い」と隣に座る妻に叫びました。妻もビックリ・・・声が出来ません。何故か、私の心に淋しさで涙が流れました。昭和時代の想い出がまた一つ消えました。さみしいですね、懐かしい思い出話になりました。

暮れ泥む

指もてきみに

手紙かく

初夏のおとずれ

紫陽花の花

幼子の

よちよち歩き

うれしくて

両手をひろげ

待つジジとババ

初夏の

若鮎踊る宮川は

清き流れに

菅笠の咲く

東京 小笠原孝枝さん

一会社前で偶然に彼の口ヶ現場を見る
札幌大通り公園(西部警察の口ヶ)

往時のヒーローは石原裕次郎だった

口ヶ現場を直に見て心が熱く華やいだ

昭和六十二年に、体調を崩し往かれた
H3小樽築港に石原裕次郎記念館誕生
十数回、同館を訪れ写真に收まつた
口ヶに使われた服、車、どれもが大切

小樽港、小樽祝津、余市への通り道

必ず立ち寄る、小樽石原裕次郎記念館

平成二十九年八月末に閉館のニュース

先日、記念館車道を通り涙が流れた

翠月の句

若芽噴く息の濁りも許されぬ
百体の無縁伴に若葉風

はくやぐ兒の軽き止みうす風薰る
黒猫の眼光りて葱坊守

思うま風と遊びて藤ゆるる
浦れ浮き若葉以朝の風之よ

七枝植えく躊躇今年も燃えく咲く
七枝植えく躊躇今年も燃えく咲く

落合登枝子

心

よ

う

れ

ま

まつり

ゆなさん・えみりさん

ゆなさん・えみりさん

ゆなさん・えみりさん



とみひまりさん・おおたれなさん

横山りりかさん・吉川歩花さん

初夏の風薰る爽やかな頃。しかし暑くなつたり、肌寒い日もあります。宗祖の時代も夏に霜が降りたという異常な気候もあったといわれます。なもあみだぶつ。どうかくれぐれも、おだいじにて、

こまだみくるさん・かたおかせりはさん



とみひまりさん・おおたれなさん

